



## 「リテラチャー・サークル」を使って、源氏物語を読みました！

64Rの古典で、日本最古の長編小説・「源氏物語」にチャレンジしました。

でも、登場人物が多い、巻がたくさんある、古語や平安時代の生活がよく分からない…。

そこで、グループで役割を決めて読み進める「リテラチャー・サークル」を行いました。



今回行ったやり方は、①3～4人のグループに分かれる ②源氏物語の中でも、特に有名な

8つの巻から、自分たちのグループが読みたい巻を1つ選ぶ ③「ストーリー係(あらすじを

まとめる)」、「エモーション係(特に印象的な“エモい”場面を選ぶ)」に分かれて読み進める

④「エモい場面のポスター」と「キャッチコピー」を作成する ⑤発表する というものです。



担当する巻を決め、自分の役割を明確にすることで、作業も進めやすくなります。

「桐壺って、源氏のお父さん？ お母さん？」「若紫と藤壺はどんな関係？」「これ、なんて意味？」

調べたことを伝え合い、ポスターの図案を考え、一言で説明するキャッチコピーを考えることで、

自然と内容が理解できます。最後に全グループの発表を聴けば、主要な巻の内容はバッチリ！



齋藤孝さんも、『読書する人だけがたどり着ける場所』(SBクリエイティブ、2019年)の中で

思考を深めるには、対話をするのが一番。  
だからおすすめしたいのは本を読んだら人に話すことです。

と語っておられます。アウトプットを通して、たっぷり源氏物語の世界を味わった授業でした！